

教育委員会会議録

令和5年（2023年）第7回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和5年（2023年）8月4日（金）	
開 会 時 間	午前9時00分 ～ 12時00分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員
	事務局	田口清行 教育次長 須佐美徹 学校教育部長 他
協 議	令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書の採択について （国語・書写・家庭・外国語・算数）	
署 名	出川 聖尚子	
	西山 忠男	
会議録作成者	教育センター 廣瀬文子	

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長	それでは、これより令和5年度第7回臨時教育委員会会議を開会いたします。
〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	本日は、教育長・教育委員5人が出席しているので、この会議は成立しております。
会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、出川 委員と 西山 委員とします。	それでは、本日の会議の内容につきましては、7月31日（月）に行いました協議1「令和6年度使用小学校教科用図書の採択」の続きになります。
日程第1 協議	
・協議1 令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書採択について（国語・書写・家庭・外国語・算数）	
遠藤洋路 教育長	それでは、協議1「令和6年度使用小学校教科用図書の採択」について事務局より説明をお願いします。
吉田 潔 副所長	協議1 について説明します。令和6年度から小学校で使用する教科書全13種目の採択をお願いします。本日は、そのうち「国語」「書写」「家庭」「外国語」「算数」の5種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。
伊藤友子 選定委員長	まず、「国語」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。
中尾聡志 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。委員の皆様からご意見・ご質問はありませんか。西山委員。
西山忠男 委員	私は、5年生と6年生の教科書を中心に見たのですが、昔の教科書と比べると、論理国語的な題材や社会とのつながりを意識した題材が大きく増えていると思います。一方で、昔ながらの文学作品を読むという題材はかなり減っているのですよね。 私は、その読むという題材と、それから書くという題材に着目して比較したのですが、光村図書は、例えば6年生では宮沢賢治の「やまなし」があり、立松和平の「海の命」があります。東京書籍は、立松和平の「海のいのち」が読む題材としてありますが、5年生には宮沢賢治の「注文の多い料理店」と椋鳩十の「大造じいさんとガン」があります。教育出版の方が日本の文学作品があまりないと感じました。ファンタジーが下巻に載っているのですが、もう少し文学的な薫りのするものが欲しいなという気がしまし

遠藤洋路 教育長	た。ただ教育出版は、物語を書こうという題材が102頁から載っていて、どちらかというと書く力を養成しようという志向の教科書かなと思いました。 ただ、全体的に見たときには、一番充実しているのは光村図書ではないかなと、特に読む力の養成というところ、5年生では「大造じいさんとガン」、これは東書にもありますが、それから、「銀色の裏地」「本は友だち」「モモ」といったすばらしい作品がたくさん載っていて、私は光村を使いたいなと思いました。以上です。
小室松徹彦 委員	ありがとうございます。他の委員の方から、いかがですか。小室松委員。 まず、この「大造じいさんとガン」のところを読み比べてみました。最後の学習のところの入り方ですけど、基本的には大造じいさんの心情の移り変わりというのがこのテーマかなというふうには思いますが、その導入の仕方が、教育出版は物語の山場を見つけるというふうな入り方をしている。それから、光村の場合、これ、物語の魅力という入り方をしている。唯一、東京書籍がその人物像についてということを真正面から、大造じいさんの人物像に迫るという書き方をしているのですが、この導入の仕方の意図は何なのかということについて、何かコメントがあったら教えてください。それが1点。 それから、もう1点は、先ほどご説明がありましたように、児童の興味・関心を高める教材というのがそれぞれの教科書に幾つか載っていました。私もその幾つかを見せていただき、非常にこの点はどの教科書も素晴らしいなというふうに思っていたのですが、その中でも特にこの傾向といえますか、例えば東京書籍の場合の傾向は、先ほどの『『永遠のごみ』プラスチック』とか、「インターネットは冒険だ」とかがありましたし、教育出版の方は、「手話で挨拶」とか、「白神山地からの提言」というふうに載っている。それから、光村図書の場合には「神様の階段」とか、あるいは、「考えるとは」とか、「人間とは」とか、そういったテーマが載せられていました。3社のこの教材の違いといえますか、何か特色があれば、それももう一つ教えていただきたいと思います。 以上2点です。
遠藤洋路 教育長 水本幸三 研究員代表	研究員の方からいかがですか。 まず、1点目の「大造じいさんとガン」の3社による単元をどう読んでいくのかという違いということなのですが、ここがとても国語科の特色で、一つの単元があるのですが、切り口というか、読み取らせ方はいろいろあるということです。学習指導要領も国語科の高学年には幾つか項目があるのですが、どこの項目を重点にするかによって読み取らせ方が違うというところで、各社にそれぞれ特色が出ているのかなと思っています。 ただ、どの社も言えるのは、国語の内容理解というよりも、どう読み取らせていくのかという、言葉を大切に読み取らせ方を重視しているというのは、随分前とは変わってきているところかなというふうに感じています。そういうところで3社の違いが出ているのかなと思います。 2点目の教材の傾向というところですが、どの社も非常に子供たちの興

	味・関心を引くような教材はもってこられています。傾向として言えるのは、公共に関することに関しては東京書籍の方がかなり力を入れるというか、バランス的には多くなっているのかなと思いました。インターネットの投稿という情報モラルとか、「永遠のごみ」プラスチック、環境問題、SDGs、それとどう立ち向かうのか、予測困難な社会にどうしていくのかということ、そういうところは、東書は公共の方に力を入れているのかなと、バランス的には多くなっているのかなと思いました。 一方、人権の方を見ると、若干東京書籍の方が他社と比べたら教材的にもちょっと数が少なくて。特に前回はパラリンピックを扱ったものとか、コミュニティデザイン、町の幸福論、そういうのを扱ったものがあつたのですが、そういうものがなくなったので、若干人権に関してはバランス的に少なくなったのかなというところで評価を出しているということです。以上になります。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	今、二つ目の方の質問では東京書籍のご説明いただきましたけど、私は、この教材の中で一番いいなと思ったのは光村図書さんだったのです、実は。光村さんの場合に、後ろの方に、考えるととはとか人間とはとか、本質を問うようなことが載っていたので、他とそこが違って面白いなと思って見させていただきましたけど、この光村さん、それから教育出版の方はいかがでしょうか。特徴的な部分、何かありますか。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
水本幸三 研究員代表	そうですね、光村さんの方は、バランスよくはもってきておられるかなと感じたところです。勤労・職業、それと公共、それと人権関係等でバランスよくもってこられている。ただ、公共の部分に関して若干、数的には少ないのかなというところを感じたところでした。 教育出版に関しましても、バランスよくはもってこられているのですが、勤労・職業のところがちっと評価を低くしたところがありました。数的には教材をもってこられていましたが、特に子供たちの将来の夢とか興味・関心につながるようなところ、そういうところが少し弱いのかなというところで、教育出版に関しましては、勤労・職業に関して評価の方を〇と判断したということになります。以上になります。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員、よろしいですか。 先ほどの小屋松委員の質問の1点目なのですが、各社違いますということ、今、説明が先ほどありましたけど、つまりそれによってどう違うかという、どれが今の熊本市の授業の実態に合っているかというところが一番大事なところだと思うのですが、具体的に言うと、それぞれの付箋の6のところですね。「大造じいさんとガン」の読み方、最初に物語の山場はどこですかというのが光村で、物語の粗筋を確かめようというのが東京書籍、それから、大造じいさんはガンを捕らえるためにどのような作戦を立てましたかというのが教育出版で、それぞれ違いますよという説明はあったんですけど、研究員としてはどれがいいかということについてはどうなのでしょう。

中尾聡志 研究記録員	失礼いたします。こちらのスライドを見ていただきますと、今、小屋松委員がおっしゃっていただいた東京書籍、教育出版、光村のねらっているものの違いをまとめております。こちらが学習課題の最後のページのところに示されたものを全て集めたものなのですが、東京書籍の方は、人物の言動から人物像を捉えて読む、つまり、指導事項の精査・解釈の中の人物像や全体像を読むという指導事項に対して、人物像を読むというところに東京書籍は力を入れて設定をしている。教育出版は、その物語の全体像を読むために山場を見つけるところに焦点化をしている。光村図書は、全体像を捉えるために多様な観点から物語を読むというような学習過程になっているのが特徴です。そのため、学習課題に書かれている言葉が、東京書籍は具体的に人物像を捉えるために心情の変化を捉える必要があるから、そういう課題が書かれていますし、教育出版は山場を捉えるための学習課題等が書かれています。 それぞれのこの三つの評価について、主体的な学びの観点からは、教育出版は○になっております。指導事項をどこに設定するか等については、深い学びのところにつながってくると思いますが、どの会社もどこに焦点を当てるかということでは、我々研究員としては、どの会社も という判断をしているということになります。以上です。
遠藤洋路 教育長	つまりどれでもいいということですね、今の話だと。分かりました。他にありますか。
澤栄美 委員	澤委員。 すみません、私は1年生が、いわゆる国語というのは、どの教科も一緒ですけど、初めて出会う中で、促音ってすごく指導は難しいのだろうなと思いながら聞いていました。東京書籍の方は、デジタルコンテンツにつないで何か音を聞くということの説明があったのですが、教育出版には2次元バーコードがなかったので、恐らくないのだろうなと思ったのですが、光村の方にはQRコードがついていますよね。そのところは説明がなかったので、その差みたいなのが何かあったのかなというのが1点です。 それと、たまたま5年生の教科書の後ろの方を見ていたら、ローマ字表があるのですが、私の中ではたしか4年生のときにローマ字って習うのではなかったかなと思いながら、4年生の教科書とかもずっと見てみたのですが、ローマ字表を見つけることができなくて、これから子供たちは、今、タブレットとかで入力の部分のスキルとしてローマ字は必ず必要なものなので、そのローマ字の扱いってどうなっているのかなというのをちょっとお尋ねしたいと思いました。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
水本幸三 研究記録員	1点目の1年生の促音について、2次元バーコードがということなのですが、光村と東書の方はつけてあります。特に東書の方が特別支援関係の手法というか、それを生かして動作化を取り入れて、手で動作化するのですが、それによってしっかり視覚的に、また、動作によっていろんな、多様に言葉を習得していこうというところが見られたので、東書の方がそういう工夫はされているのかなというふうに思ったところです。

遠藤洋路 教育長	また、ローマ字については、特にこれからの時代、キーボード入力等も出てきたということで、以前は4年生ですることになっていたのですが、それが3年生の段階、特に総合的な学習等の関連もあるのかもしれませんが、3年生からローマ字の方をキーボード入力等の関係で習得させようということで入れてあるということです。ただ、3年生で終わるのではなくて、いろんな教科と関連づけながら、3年生、4年生でも扱っていくというのが子供たちの定着にはつながるのかなと思います。
澤栄美 委員	澤委員。 3年生に移ったということなのですね。東京書籍の方は、また繰り返しというところでそれが入っていたということですね。3年生まで下がって見ていなかったの、何かどこで扱うようになったのだらうと思ったところでした。 促音のところですけど、このたたく、握る、たたくという絵があって、2次元バーコードで実際やってみるような動画があるから、ここが全て優れているということだったのですね。この光村の方は、2次元バーコードついていますが、そういった内容ではないので、こっちの東京書籍の方を取り上げておっしゃったということになりますかね。 片や、ローマ字を見つけていたときに、光村図書の方に点字が掲載されていたのですが、これはもう光村図書の特徴ということですか。他の教科書会社でも扱っているのでしょうか。
遠藤洋路 教育長 水本幸三 研究員代表	いかがでしょうか。 点字に関しては、光村も単元で入っていて、実際に点字のものがページとして入っていると思います。他社も全て点字のところが入っております。東京書籍も単元の中にはないのですが、関連ということで巻末の方に点字のページがあったかと思います。恐らく3年生ぐらいだったかと思います。すみません。
遠藤洋路 教育長 澤栄美 委員 遠藤洋路 教育長	澤委員。 ありがとうございました。 出川委員、いかがですか。
出川聖尚子 委員	今、東京書籍の方のご説明を聞いて、やはりちょっと小学校の1年生の教科書の先ほどの「は」のところを見ると、他のところは「を」と「へ」を一緒に見ていたと思いますが、別々のページに書かれていて、スタートするときに子供に丁寧に書いてあるなというのはちょっと思いました。 また、大造じいさんのところも、読み物が好きな子は恐らく自分でどこか視点をもって読んだりすると思うのですが、東京書籍の方が何か鳥がより具体的なので、読むのが苦手な子は、どこを視点にといったときに読みやすいだろうなというふうに思いました。 一方また、私は、光村図書がいいなと思ったのは、書くというところはさっきお話があったと思いますが、書くことを丁寧に何かどうやったら書け

遠藤洋路 教育長	るかとか、具体的に書かれている点が非常に光村図書は優れているなというふうに感じました。以上です。 ありがとうございます。 私から1点質問で、先ほどの説明、これ、大きな話ではないんですけど、最初の方の説明で巻末の何かまとめの部分についての説明があったと思うのですが、教育出版は分冊になっていますよね。その巻末のまとめの部分が上下に分かれているので、それがデメリットだという話があったんですけど、分冊になっているので、それは上下に分かれていないと、上には何も載っていないということになるよりは、それぞれに分かれてまとめが載っている方がいいのではないかと思うのですが、そこがそうじゃなくて、下にまとめた方がいいというお考えなのでしょうか。
中尾聡志 研究記録員	失礼いたします。そういう下巻にまとめてというわけではなくて、例えば、上巻に下巻のまとめが書かれていたりだとか、下巻に上巻のまとめがあったりだとか、上下分冊する中で、教科書のその1冊の中で見通しがもてるといような形があると、よりいいのではないかという意味で説明させていただきました。
遠藤洋路 教育長	それは、上にも下にも全体のまとめが載っていた方がいいという、そういう意味ですね。
中尾聡志 研究記録員	系統性を考えたときに、そのように考えました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。ありがとうございます。 あと、もう1点、さきほどの説明の中で助詞ですね。1年生のところにありましたけど、これは光村でしたかね。「は」とか「を」とかのやつがあったかと思いますが、これは何かどれか一つだけ、何か例文がもうちょっとあるといいというようにお話があったかと思うのですが、そんなに数が違わないようにも見えるんですけど、そこはどういうことなのか、ちょっともう一回教えてもらっていいですか。
中尾聡志 研究記録員	失礼いたします。こちらで示してある例文が今スライド上で4つということになります。「は」については2つ、顔を洗うの「を」については1つ、家への「へ」については1つと、それぞれに2つと1つ、1つというふうな形になっているのが光村図書になっています。 教育出版の場合、「は」は2つあって、「を」が1つですが、「へ」の方も2つある。そこで、例文の数で、これをあまり変わらないという判断になれば変わらないというところなのですが、あと、種類の数としてはこちらの方が多いということです。 そして、こちらの方は、その四角に入れるような形の分も入れると、例文の数というのは光村よりも多くなっているのではないかという判断が教科書の研究員の中ではあり、光村の方は少し少ないというところで〇にしたという判断でした。
遠藤洋路 教育長	つまり、東京書籍と教育出版は5つで、光村が4つだから光村が少ないという、そういうことですかね。

中尾聡志 研究記録員	数だけでいくと、東京書籍は「は」を扱っていて、「は」について、これが6つあるという数え方にはなりません。
遠藤洋路 教育長	「は」以外はどこにあるのですかね、東京書籍は。この後ろの例えば54頁にありますね、「を」とか「へ」とか。これを見ると、東京書籍は「は」だけで5つあって、「を」とか「へ」もそれぞれ幾つもあるということで、それが一番多いということですかね。そこは全然違いますよね。教育出版と光村は5つと4つの差だけど、5つならオーケー、4つはちょっと足りないとか、そういう問題になっているということですね。
中尾聡志 研究記録員	すみません、評価としましては、東京書籍が学習指導要領の1番の観点ですので、東京書籍が○、教育出版が○、光村が○という判断になっております。
遠藤洋路 教育長	基本的なところは東京書籍が一番充実しているということですかね。
中尾聡志 研究記録員	そのようになります。
遠藤洋路 教育長	分かりました。ありがとうございます。他に委員からご意見ありますか。特にありませんか。 他になれば、「国語」は以上といたします。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「書写」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
中尾 聡志 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田 伸一 所長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。西山委員。
西山忠男 委員	この表を見ると、教育出版が一番が少ないのですが、私自身は教育出版が一番いいと思ったのです。 まず、原理・原則のところの書き順なのですが、巻末の漢字表がごさいますよね。漢字表を見比べると、まず光村は、5年生で学習した漢字、これはどれも載っていて、難しい漢字には語順が番号を振ってあるのですが、これ、非常に薄い青字で見にくいですね。それに対して、これは教育出版の6年生を見てください。6年生の漢字表、5年生で学習した漢字、これも青字なのですが、枠が赤いので非常に見やすいですね。東京書籍の漢字表を見比べますと、5年生で学習した漢字には全く振っていないですね。この

	漢字表を見ると、私は教育出版が一番いいと思ったのです。 2点目は、点画のつながりです。6年生です。光村の10頁をご覧ください。これはUDというやつで示してあるのですが、ちょっと意味が分からない。猫がトンボを追いかける絵なんかがあって、見にくくはないけど、いま一つかなという感じですが、東京書籍ですと10頁、これは「物」について書いてあるのですが、ちょっとこの青いくねくねが分かりにくいというところがございます。ところが、教育出版ですと、21頁です。これは、「思いやり」「心」の例があるのですが、これは非常に見やすくて分かりやすいですね。 最後に、部分の組み立て方に移りたいと思いますけど、光村図書は9頁、6年生です。分かりやすいのですがちょっと小さい、全体的に、数は多いけど小さいという特徴があります。東京書籍の6年生ですと、18頁になりますが、これは組み立て方の例が少なく、あまり分かりやすいと思わないです。2つしかないですね。それに対して、教育出版ですと30頁、これは大きくて見やすくて分かりやすい。例は少ない、3つしかないのですが、見やすいという特徴があって、私は研究会の評価とは違って教育出版が一番いいなと思ったのですが、いかがでございましょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
藤米田成二 研究員代表	では、失礼いたします。今ご指摘のとおり、点画のつながりについては、確かに青い漢字の部分のつながりというのは、東京書籍はちょっと見にくい部分があるかなと思います。ただ、漢字と平仮名ですから、その部分では少し条件が違う部分もあるかとは思いますが。 巻末の漢字表についてですけど、巻末の漢字表の方が、東京書籍と光村の方は、筆文字と鉛筆文字が並べて書いてあって、硬筆の分と筆で書く分の文字の形というものを表してあります。教育出版の方は、鉛筆文字を載せてあるというような形です。 組み立て方につきましては、それぞれ6年生のところに書いてある光村と教育出版に関しましては、これまで学んできたことをまとめてそこに、6年生のところで載せてあるというような形です。それぞれの教科書会社は4年生でいろいろ左右とか上下の組み立て方をしていきますので、そういった面におきましては、それぞれの4年生で学んだことを6年生で、書き表したらこうなってしまいますけど、東京書籍の場合は、三つ並びの分は6年生でしかできませんので、6年生の組み立て方しか載せてありませんでした。ただ、ほかのこれまでの学びの中では、組み立て方としてはそういった形で、それぞれの教科書会社も工夫して載せられているというところなんです。 ただ、我々研究員の方で話をしていたときには、やはり見たときに子供たちがどの部分に目を向けるか、集中できるかという教科書の扱いというのがやっぱり必要かなと、あまりたくさん書いてあっても目移りしてしまって集中できないし、ポイントが分からなくなってしまう。なので、そういった面で少し、教育出版はいろんな説明が載っていて、少し教科書の内容が多過ぎるかな、ある程度情報を絞ってある教科書の方がいいのかなという部分も一つ、その中に踏まえて入れておりました。以上です。
遠藤洋路 教育長	ほかの委員の方からいかがですか。 澤委員。

澤栄美 委員	私は、今の説明の中で、最初の東京書籍の1年生の鉛筆の持ち方のところで、左利きの子供も同じように同じページに掲載されているのはすごくいいなと思いました。ほかの二つの教科書会社は、左利きの子は別のところから見るようにというふうになっている。人権教育は全部〇なのですが、そういう意味では東京書籍はそういった面で優れているし、さっきの国語のところでも特別支援に配慮したようなところが見られて、いいのかなというふうに思いました。 あの調査結果を見ると、例えば、東京書籍だけが勤労・職業が、それから、光村図書だけが生命・自然が、ということで、どのあたりが違ったのかなというのと、それと逆に、光村図書が対話的な学びが〇ですね。書写の中で対話的な学びっていったいどんなもので、結果的にこの光村が対話的な学びは他社に比べて〇だったのはなぜかなというのをちょっと知りたいなと思って、お伺いしたいと思います。
藤米田成二 研究員代表	では、失礼します。まず、勤労感・職業感の部分、東京書籍だけが、なっているという部分ですけど、それぞれ職業に関する取扱いは、それぞれの会社がされております。動画等も入っている部分がありますが、東京書籍だけが職人さんの思いという部分が動画の中に入っております。それ以外のところは、作り方等が入っていたんですけど、思いが入っているという部分が、やはり子供たちにとっては、そういった働く人たちの気持ちを知るとい面でもいいのではないかと判断で、にしております。 それから、光村図書の生命・自然・環境について、という形で入れておりますけど、これは、SDGsに関して光村図書はとても積極的にといたしますが、取り入れてあります。SDGsブックというのが4年生に入っております。あと、それぞれの教科書の裏表紙にSDGsに関わることが二次元コードで読めるような形になっておたりしておりますので、光村図書のそういう環境等に関する意識が高いという面で、という形を取らせていただきました。 それから、対話についてですが、書写の中での対話というのは何かといいますと、例えば、先ほど形の違う文字を、課題を見つけるときに出しますが、そういった中で、どういうふうに書けば、その目標となる正しく整った文字になるのかということをお互いに自分の書いたもの、または問題として出されているものを見ながら出し合って、そして、出し合う中でその課題に迫っていく、課題を見つけっていくというような形が書写の中での対話と考えております。また、自身が書いた文字が最終的にどんなふうに変容していったかということをお互いに気づくということでも、対話を大事にしているところです。 すみません、以上です。
遠藤洋路 教育長	澤委員。
澤栄美 委員	光村はちょっとそれが足りなかったということですか。
遠藤洋路 教育長	いかがですか。
藤米田成二 研究員代	決して足りないというわけではないんですけど、ただ、東京書籍と、あと

表	教育出版の方には、その対話を促すような項目とありますが、学習の中に対話を促す発問が載っておりまして、そういったところから授業の中でも実際にその対話を行うことができるというような部分で評価したところで
遠藤洋路 教育長	ほかの委員から、小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	私は、まず鉛筆の持ち方のところで、今、澤委員がおっしゃったこと以外でいきますと、持ち方の説明、これを1年生が見たときにどれが一番分かりやすいかなと思って見たときに、私は教育出版の「えんぴつのもちかたあいことば」ということで書いてありますけど、これが一番1年生にとっては分かりやすいかなというふうに思いました。 それから、気になったのは、これは東京書籍と、それから教育出版の方の鉛筆を持ったときに三角が書いてある部分です。私、実際これをやってみて、三角をつくろうとすると何か手が硬くなると思いますが、ということで、この三角は書かない方がいいのではないかなというふうに思いまして。むしろ書くのであれば、光村図書のような書きの方がよかったのではないかと。三角はちょっと私的にはどうかなと思いました。それが1点です。 それからもう一つ、先ほど冒頭のご説明の中で、それぞれ各出版社のコンテンツの内容に違いがあるというふうにお聞きしたと思うのですが、そのコンテンツの違いがどういうところにあるのか、ちょっと教えていただけますか。
藤米田成二 研究員代表	私の方から、鉛筆の持ち方の件について説明させていただきます。 それぞれ書いてある内容としては、同じような、つまんで持ち上げてというような形で書いてあるかと思います。確かに教育出版のように、道筋が書いてあって、その順にやっていくと鉛筆がきれいに持てるというのはなかなかアイデアがあるなというところではあります。ただ、やはり実際に自分たちで持たせるときに、これを見ながら書くということと、あともう一つは、大きな写真を使っているときに、特に持ち方の入門であります1年生がする場合、そこに自分の手を重ねて置けるというのも一つ大きなポイントかなというふうに考えております。 あとまた、コンテンツについては、記録員の方からご説明いたします。
中尾聡志 研究記録員	失礼いたします。こちらが二次元コードのそれぞれの個数等を数えたものです。東京書籍の方は、各学年にQRコンテンツ一覧というページがありますので、それを私どもは目視で数えたので、もしかしたら細かなところは違うかもしれませんが、教育出版の方も「まなびリンク」というページがありますので、そこから一つずつ目視で数えていったのがこの数になります。光村図書は、内容解説資料からこの数を持ってきております。東京書籍は動画が90、教育出版は動画が79で、光村図書は写真が222というふうになっています。 数に開きがありますが、どこまでを、何を1として見るのかによって数が変わってくるので、数の多い少ないでどれがいい、悪いというのは難しいかなと思いますが、それぞれの内容について、東京書籍の動画、アニメーション等は授業で使えるようなもので、シミュレーションというのはこのようなものがありました。

	東京書籍は、羊の字のところで最後の横画の位置と長さを自由に変えることができ、どこに位置づけばいいのかということが分かるようなシミュレーション、そのようなものが六つの題材であったということです。 教育出版の資料としては、このような姿勢、鉛筆の持ち方、推奨用紙の説明等の資料が入っていて、ワークシートは運筆の練習シート、学習前後の名前を書くシート等が入っていました。光村が写真と補充教材、ちょっと数が多かったので、次のスライドに持ってきましたが、アニメーションでいえば、書き順、字形の秘密等が入っております。参考資料の中には、手すき和紙の作り方、仮名の歴史等も入っていました。光村の写真222は、学校にある文字、全国書き初めマップ等、一つのページの中からいろんな県の書き初めの会場の写真が見られるというようなものです。補充教材については、字を書く姿勢等のこのような補充教材が入っていたと、これがデジタルコンテンツの一般的な傾向かなというふうに思います。以上です。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	すみません、今のもう一つ前の画面に戻ってもらってもよろしいですかね。コンテンツの内容のところ。 ここで、先ほど動画を見せていただきましたが、これ、例えば書き順とか、ある部分、目で見ていった方がいいようなところがあるかと思うのですが、授業の中でこの動画を使っていくと考えたときに、この3社の中で一番それが使えるようなコンテンツが多いのはどこだったのですかね。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
藤米田成二 研究員代表	筆順に関してということでしょうか。
小屋松徹彦 委員	全て、書くということについて。
藤米田成二 研究員代表	書く動画自体については、それぞれ手本の文字についての動画を見られるようになっているので、それが大きくどこがいいというのはなかなか言いにくいところはあるのかなと思います。そこはどの教科書会社の動画を見ても、いろんな角度から、光村図書とは限らず、いろんな角度から映された動画が見られるようなものとかがあります。基本的に書いている様子というのが動画で見られるようになっているので、大きなこれがいい、これがというのは、その動画を見て書き方を学ぶという点では、大きな差は特にないのかなというふうに考えます。以上です。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	ということは、どの教科書にもあるということですね、そのアニメーションなりが。
藤米田成二 研究員代表	手本についての動画はあると思っています。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員、よろしいですか。 出川委員、お願いします。

出川聖尚子 委員	先ほどご説明いただいた小学校1年生の止めとか払いのところで、やはりちょっと書き順の色分けをしているところ、ご指摘がありましたけど、光村図書や教育出版は色分けしていて、とてもそれが分かりやすいなと思いました。ちょっと東京書籍の方は数字が書いてあるので。
遠藤洋路 教育長	出川委員、よろしかったら、何頁か。
出川聖尚子 委員	すみません。光村図書は1年生の30、31です。そして、東京書籍は同じ30、31です。そして、教育出版は、さっき説明をちょっとしていただいた3、4のところになるかと思いますが、30、31、同じように、書き順のところがすごく1年生に、これが大事なのだからって伝わるのはやっぱり色分けしてあるところかなというふうにちょっと思いました。 また、先ほどちょっと数が多いと言われましたが、書写の光村図書の5年生の例えば8、9の部分の組立てというところは、いろんな文字がそういう大きさを意識しながらつくられているというふうに書いてあるので、これはこれで数が多い方がいいのかなというふうに、私自身としては感じたところです。 ただ、先ほどお話しいただいた東京書籍は、1年生から6年生にかけて、ずっと右側の方に平仮名の書き方とか、配列とか、ずっと1年から6年通して何を学ぶかということが非常に分かりやすく書かれている点がとてもいいのではないかなというふうに思ったところです。感想になります。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 では、私からも、先ほどから出ています鉛筆の持ち方なんですけど、持ち方のこの何か順番みたいなのが書いてある。例えば、教育出版だと7頁にあたり、光村だったら、これは9頁ですかね、それから東京書籍だと4、5ですかね、持つ手順というのですかね、順番。この教育出版のやつは、何か鉛筆をつまんだり、放したり、ころころしたりって、これ、毎回こんなことしますかね、持つたびに。何でこれはこういうふうになっているのかなと思ひまして、教えてもらえますか。
藤米田成二 研究員代表	持つたびにということは多分恐らくないと思うのですが、1年生で初めて鉛筆を持つときに、こういった形で持つという最初の取り組み方じゃないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	だから、ほかの教科書は、毎回持つときの順番が書いてあるのだけど、教育出版だけは何か最初に鉛筆というものを触ってみようみたいなことが書いてあるのだけど、じゃ、毎回書くときにはこの順番でやるわけではないので、何かむしろ分かりにくいなと私は思いました。 それから、さっき小屋松委員から、この三角形というのを実際やったら、三角形にするのは結構難しいというようなこともあったのですが、これもそうかなとは思いつつ、自分でやってみると、光村のこの人さし指が真上に来る逆三角形みたいな、この角度の方が難しく、私はちょっと手首をよっぽどひねらないとこの向きになんないなと思ってしまって、向きとしては何か、これに関しては教育出版の向きが一番個人的には自然だなというふうに思いました。だから、一長一短それぞれあるなと思います。

	この大きな写真の、この鉛筆を持っている写真とか絵がありますけど、光村のこの8頁の絵は、この親指に人さし指は分かるのですが、それ以外の指がちょっとどうなっているのか分からなくて、指が合体しているとか、なので、中指、薬指、人さし指がどうなっているのか、ちょっとこの写真だと分かりにくいなというふうに私は思いました。その点はほかの教科書の方が、どの指が下についていて、どの指がついていないかというのが分かりやすくいいかなというふうに思ったところです。 全然別の話になりますが、先ほど最初におっしゃっていた、ただ手本をなぞるだけで、要するに何か原理・原則を学んでいないみたいな話がありましたが、それは、授業のやり方の問題に大いによるような気がするのですが、教科書によってそれが変わるものなのですかね。いい教科書を使えば、ただ手本をなぞるだけの授業がちゃんと原理・原則から学ぶ授業になるのですかね。それが教科書を選ぶときの要素になるのですかね。
藤米田成二 研究員代表	授業者のやっぱりその授業の持ち方というところに大きく影響される部分ではないかなと思います。書写の目標としては、正しく整った文字を、そのための基礎・基本を身につけるということと日常化を図る、それから生かされるということが目標になっておりますので、それを踏まえた上で授業をするということは一番でしょうけど、教科書の中に、先ほども説明の中にもありましたが、書写の毛筆を書いた後に硬筆でまとめるというような部分があり、そのまとめる部分で、書写で学んだ、毛筆で学んだことを生かすということを意識的にできるかどうかというところが大きな部分ではないかなと思います。ですから、教科書の中にそれが入っていれば、授業者の方もそこを意識するのではないかなというところを考えます。以上です。
遠藤洋路 教育長	その原理・原則というのは、例えば、どの教科書でいうとどの部分ということをおっしゃっているのか、大体の教科書には、最後の方には何かまとめが書いてありますが、そういうことではなくて、多分毎回毎回のそれぞれ習うところにどのぐらいそれが書かれているかということによるかとも思うんですけど、ちょっと例を示して、この部分が原理・原則とおっしゃっている部分ですよというのが分かれば教えてください。
藤米田成二 研究員代表	先ほどプレゼンの方で説明がありました5年生の道という文字のところで説明させていただきます。 東書の方では道の字が10頁、11頁という形でありますけど、11頁の方はもうお手本という形になります。右側の組み立て方の中で、によが入る漢字に関しては、どういった原則があるのだ、原理があるのだというのを学ぶために、最初に赤と青で大きさを比べてあります。それが結局、右下に「書写のかぎ」ということで書いてありますが、によの右払いを長く書いて、上に乗る部分の右側を少し空ける、そういう書き方をすれば整った文字が書けますという一つ原理・原則というような形になると。 教育出版に関しましては、12頁、13頁のところですけど、特に13頁の方に道の字を、色を分けて、上と下の、によの部分と中の部分で分けて書いてあります。これに関しましては、左側の「ここが大切」というところに、中の部分が外の部分からはみ出さないように書くという字形が整う、そして、によの上は少し空けるというような言葉も書いてございます。 また、光村に関しましては、6頁、7頁の6頁の方ですけど、ここにも「た

	いせつ」という部分が下にありまして、にょうの右払いが中の部分より右に出るように書くと字形が整うというような書き方がしてあります。実際に光村の場合には、上に場所を変えて、こういうふうに整い方が違いますよというところで書いてございます。 このようにだから、「書写のかぎ」だったり、「たいせつ」だったり、「ここが大切」でだったり、そういった中に、その学習の中でこういう文字を書くときにはこういう組み立て方をすると正しく整えて書けますというのをまとめてありますので、それを生かして硬筆、日常の文字につながるというふうに指導ができればと思っております。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 今の部分は、さっきの説明のところの のところに反映されているということでしたよね。だから、そこで東京書籍は で、教育出版と光村が○になっているのは、今のところに関して言えば、確か教育出版は何かいろいろ書いてあって情報量が多過ぎるみたいな話があったように思いますが、光村と東京書籍の比較はどの辺が違うのですかね。
中尾聡志 研究記録員	失礼いたします。しんにょうの筆遣いのところにここでは焦点を当てております。東京書籍の筆遣いの説明は、赤丸のところで一度筆を止め、方向を変えるというのがまず一つありまして、二つ目に、しんにょうの2画目は左へ傾くように書くということがあって、3点目に、最後の赤丸から払い始める。ここがしんにょうの筆遣いとして、深い学びを生み出すための手だてとして三つ書かれてある。 光村図書の方を見ますと、しんにょうの筆遣い一つ、中の部分の右端で一度止めてから払うと、ここだけになっております。もう一つ、右払いが中の部分より右に出るというのがありますが、こちらの方は原理・原則の方に当たりますので、筆遣いとして書かれていることは1点になると、そこがより充実した筆遣いの仕方というのが書かれると深い学びにいくというような我々の判断であります。
遠藤洋路 教育長	今聞いたのは、原理・原則の部分の比較がどうなっているかということだったのですよね。
中尾聡志 研究記録員	この深い学びのところの原理・原則だけで評価しているわけではなくて、原理・原則や筆遣いだとか、いろんなものが深い学びを生み出すための評価の基準になっております。
遠藤洋路 教育長	だから、その中で原理・原則の比較がどうなっているかという質問です。
中尾聡志 研究記録員	今の藤米田校長先生からのお話にあったとおり、原理・原則自体は大きな差はないという判断です。
遠藤洋路 教育長	原理・原則の部分は、どの教科書も同じ評価だということですかね。
藤米田成二 研究員代表	原理・原則に関しましては、もうそれぞれポイントは押さえてありますので、どの教科書もそんなに大きな差はないというふうに判断しております。

遠藤洋路 教育長	もしそうだとすると、そこが一番ポイントですよと言った最初の提示は何だったのだろうなというか、教科書選定にはあまり結果的に影響していないという、そういうことなのですかね。
藤米田成二 研究員代表	原理・原則を学んだ上で、その後、日常に戻すという、その硬筆の部分も一応その中の判断には入れております。今回の道の場合でいうならば、東京書籍の場合は、自分たちでどのような文字を探してきて、原理・原則に合わせて書くとか、そういった部分、教育出版に関しましては、書く部分が試し書き、まとめ書きの分しかありませんでしたが、それ以外の文字についての書き込む部分がないこととか、光村に関しても同様に、書くこと、なぞるといような形で終わっておりますので、もっと自分たちでこうやって生かしていけるような活動が入るといいのではないかなというふうに考えております。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。最初に、要するにお手本をまねするだけで、原理・原則をあまり考えないという授業になっちゃっていますよという話がありましたよね。だけど、原理・原則の部分はこのそれぞれの教科書は、あまり差はないということであれば、そういう授業を改善するという観点では、別にどの教科書もあまり優劣はないという、そういう意味でよろしいのですか。
中尾聡志 研究記録員	今説明があったとおりなのですが、原理・原則の書いている内容自体はそう3社ごとあまり変わらないけど、それをいかに硬筆に生かしていくとか、生かし方とかつながり方もこの深い学びの中で必要なことで、例えば普通の授業の中で原理・原則を示せば全ての授業が改善するかと、それはそうではなくて、原理・原則を示すことと、それをいかに日常化していくかという、そのつながりまでを含めて深い学びの評価、手本を学ぶだけじゃない授業の姿と考えております。
遠藤洋路 教育長	それは分かるのですが、普通の授業で原理・原則がどう生かされるかという部分の、じゃ、今の違いでいうと、東京書籍がで、教育出版と光村が。ということで、原理・原則以外の、硬筆と毛筆っていつも、さっきからおっしゃっていますけど、どちらを想定しているというか、ふだんは毛筆を想定されて今お話しされている、それとも硬筆を想定されている。その辺から、ちょっと前提がよく分かっていないので教えてもらえますか。
藤米田成二 研究員代表	書写の場合は、毛筆をしますけど、毛筆の筆を使うことで、その一画一画の止めだったり、払いだったり、そういったものを意識的に書く。その意識的に書いた文字の形というものが硬筆に生かされるということが最終的な目標になっていくと、毛筆が全てではなくて、毛筆から硬筆に生かしていくという部分が目標になっておりますので、毛筆だけを頭に入れて授業するのではなくて、毛筆から学んだことが実際に日常の硬筆の中で生かされていくという部分につながるような授業ということを考えております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。何となく違和感があるのは、皆さんの説明というよりはやっぱり教科書の問題で、例えば、お手本は毛筆なのだけど、練習しようと

	いう、漢字を書こうという部分は鉛筆で書こうとなっているわけですね、これ。だから、そもそもどっちなのだというところは、このやっぱり教科書自体の問題としてあるのだろうなというふうに思いますよね。毛筆と硬筆が、じゃ、同じ字だけど同じ書き方なのですかと、鉛筆で練習させておいて、見本は筆なのですかという、そこをもうちょっと教科書で、どのそれは3社も一緒ですけど、もうちょっと何か工夫してもらえるといいのかなというふうにやっぱり思いますよね。同じページに毛筆と硬筆が混在しているわけですね、これ。だから、ちょっとその辺もあって、やっぱり毛筆をやるときには、この硬筆の練習の部分はあまり役に立たないので、取りあえずお手本をまねして書いてくださいみたいになるような気もするし、じゃあ、鉛筆で書くというときは、逆にこのお手本は直接役に立っていないくて、この小さい升のところにみんな書いてくださいみたいになるので、何となくもうちょっと毛筆と硬筆を整理して教科書も提示してもらえるとありがたいなと今、皆さんの説明を聞きながら思いました。以上です。 あと、どれがいいかという話は、今委員さんからいろいろ出てきましたのであると思いますが、今のペースで言えば、私はこの東京書籍ですかね。にようの上の部分というのの右側を少し空けるという説明が一番しっくりくるかなという、教育出版みたいにはみ出さないというだけではないだろうし、光村みたいに、この最後の払いの部分だけのみですよみたいな線もないような気がするので、全体のバランスを一番考えられているのは東京書籍の教科書じゃないかなと思います。これ、1年生のときの四つのこの部屋に分かれていますよみたいなのもやっぱり、字全体のバランスを一番分かりやすく示しているのは、私は東京書籍じゃないかなというふうに思ったところです。以上です。 ほかに、どうですか。西山委員。
西山忠男 委員	ちょっと短く、私の教育出版がいいと思うポイントをもう一点だけ指摘しておきたいと思います。 教育出版の6年生の38頁、手紙の書き方がございますが、これが3社の中で一番優れています。前文、主文、末文という手紙の構成の仕方がきちんと書いてある。拝啓と敬具の対応について説明がある。左頁には、横書きの手紙の書き方が書いてある。縦書きの場合は、宛先の名前は一番左端に書くけど、横書きの場合は一番上に書くということがきちんと示されています。こういうことは、今みんな手紙を書かなくなっているので、きちんと一度教えておく必要がある内容です。 一方、光村図書の6年生は、24頁にございますが、これは縦書きの手紙の書き方だけで、前文、主文、末文という構成の説明はありません。拝啓と敬具の対応についても説明がありません。 東京書籍は、6年生では手紙の書き方はなくて、4年生の38頁にございます。4年生で手紙を書くかということ、そんなことはまずないだろうと思うのですが、拝啓、敬具もないし、これは前文、主文、末文という構成はあるのですが、非常に簡単で、やっぱりちょっと出し方が早過ぎると思うのですよ、東京書籍。そういう意味で、私は教育出版が優れていると感じています。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。ほかに委員からご意見はありますか。よろしいですか。

	なければ、「書写」は以上とします。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「家庭」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
三浦寿史 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、委員の皆様から、ご意見がありましたらお願いします。
西山忠男 委員	この評価表を見ると、 の数は一つしか違いがないんですけど、私はやはり東書のほうが優れていると思いました。その理由は、記述が丁寧で、子供たちに分かりやすいだろうと思ったからです。具体的に示しますと、東書の50頁、それから開隆堂は54頁かな、栄養素の体内の働きの説明を見比べてください。東書の方は50頁で、栄養素がエネルギーになる、体をつくる、体の調子を整えるという、それぞれの対応関係が示されて、その下に具体的な食品が示されています。これだとぱっと分かるわけですね、何を取れば何になると。ところが、開隆堂さんのほうは、具体的な食品と栄養素の対応関係が55頁のほうに書いてあって、左側のたんぱく質とエネルギー、体をつくる、調子を整えるとの対応が一目で分かるようになっていないんです。いちいちこれはこっち、これはこっち、非常にこれは分かりにくいと思いました。もう一点は、野菜のベーコン巻きの作り方で比べてみましょう。東書は118頁です。開隆堂は123頁です。野菜のベーコン巻き、開隆堂は123頁の真ん中にあるんですけど、説明が1、2、3と非常に簡単なんです。これに比べると、東書の118頁は、洗う、切る、ニンジン、サヤインゲン、エノキダケ、ベーコン、ゆでる、炒めると非常に丁寧に書いてあって、これに従ってやれば誰でも作れるというような感じです。こういうところは、やはりちょっと説明の丁寧さという点で東書に利点があると思いました。以上です。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。他の委員からはご意見ありますか。
小屋松徹彦 委員	私もほぼ同様な考え方なんですけど、やはりこの導入の部分を見てみると、まず左手からずっと見ていきますけど、やはりこの説明の仕方、この並べ方という、こういったものがやはり東京書籍のほうが見やすいなということと、導入がスムーズに2年間の学習に入っていけるなというのは東京書籍のほうかなと思って見させていただきました。以上です。
遠藤洋路 教育長	他にいかがですか。
澤栄美 委員	私も東京書籍の方がすごく丁寧な感じが全体的にするなというふうに思

	ったんですけど、最初の説明の中で、ポートフォリオ的に東京書籍がなっているというところの、そこをもうちょっと具体的に、それがどこをもってポートフォリオなのかということをちょっと教えていただきたいということが一つです。あと、思考ツールが使われていてということで、東京書籍の13頁辺りに思考ツールが掲載されているわけですけど、今タブレットとかでもロイロノートとかで思考ツールはかなり使っていますので、子供たちにも身近なもので、タブレットとのつながりもあっていいのかなというふうに、そこは思いました。じゃあ、ポートフォリオのことについて、どのあたりがポートフォリオ的なのかということを詳しく教えていただきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
古家慎也 研究員代表	ご意見ありがとうございます。東書のほうのポートフォリオ的な成長の記録という部分でございますけど、ここは各題材の振り返りの部分で、振り返った内容をここに転記していくような形になっているかと思います。そうしますと、教科書の題材の最後に出てきたことがここに一つにまとめられてまいりますので、後で振り返るときに、自分のどこに課題があって、どんなことにチャレンジしたいのかというふうなのを一覧で見ることがができますので、後の実践で、自分の課題を出して取り組んでいくための資料として、一つのまとまった資料として使うことができるものになっているということで、非常にいいのではないかなというようなのが私たちの意見です。以上です。
澤栄美 委員	分かりました。ここのページが特にそういう感じということですね。どこかにずっと記録をしていって、自分でポートフォリオ的に使っていくという全体的な部類じゃなくて、ここでそれがまとめてあるという、そういう理解でいいですか。
古家慎也 研究員代表	そうですね。
澤栄美 委員	なるほど、分かりました。そういうところが結局、1のほうですかね、見通しと振り返りを生活に生かしていくという点で、そういった点も、これが優れているという部分の一つの例として挙げられるということですよ。はい、分かりました。ありがとうございます。
出川聖尚子 委員	私は、開隆堂がいいなというふうに思いました。というのも、この教科書の右端のほうに、衣食住というふうに、教科書の単元でどこを学ぶかということが一目で衣食住の部分が分かるということがまず1点挙げられますし、また、内容的にも、例えば開隆堂の66頁に、なぜ衣服を着るのかとか、衣服の働きを知ろうとか、安全な着方を工夫しようとか、そういうふうにより生活に近い視点で書かれている点です。 また、98頁には、衣服の手入れで快適にというふうに、なぜ手入れをするのだろうかとか、自分で手入れするというふうなときにどういうふうにしたらいいいのだろうかというようなことが分かりやすく書かれています。家庭科でやはり部分的にミシンの使い方とか、そういうことも学ぶのも大事だと思うんです。生活一般で力をつけるというか、視点をもつという意味

	では開隆堂さんが、他のこちらの東京書籍の方は、そういうところが私にちょっと探せなかったです。そういうところや、また 58 頁、開隆堂さんの生活を支える物やお金というところも、東京書籍のほうにも物やお金の使い方というものがあるんですけど、開隆堂さんの 60 頁に、まず買物をするときにはどうするか、目的を考えて買うとか買わないとか、そして、62 頁とかにも計画を立てるとか、そういうことを書いてあります。例えば 64 頁には困ったときにどうすればいいとかいうようなこととか、何かより本当に生活に、子供たちに力をつけてほしいなという生活の知恵みたいなものが分かりやすく書かれているなというふうに個人的には思いました。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。なるほど、確かに今までは主に調理というか、食べ物の食の部分の説明が多かったですけど、それ以外の住とか衣の部分を比べると、また違うところが見えてくるかもしれません。
西山忠男 委員	衣服の手入れと片づけは、東書の 97 頁にも同じ内容がございます。
遠藤洋路 教育長	東書の 97 頁、開隆堂は何ページでしたか。開隆堂は 98 頁から一連の、この辺は、もし今までの検討の中で、調査の中で食以外のこと、特に衣服とか、先ほどの生活とか、住居とか、そういった部分での比較というのをもしこれまで議論されていたら教えてください。
古家慎也 研究員代表	失礼します。委員の中での話では、その部分については、両方の教科書はそんなに大差はないのかなというところが意見でした。ただ開隆堂の方が、説明にもありましたけど、持続可能な社会という部分を全面的にうたっておりますので、そういう意味で家庭生活、地域のつながり、そのあたりの部分にちょっと力を入れておられるんだらうなというのは感じられるところですが、教科書の中の扱っている内容としては、そんなに大差はないのかなというふうなことが意見でした。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 私の感想でいくと、開隆堂は、先ほどの学校からの意見か、展示会の意見からありましたが、見やすいというような話がありましたけど、私はむしろ開隆堂の方がページの余白が少なく、端っこまで字が書いてあるという、見にくいなというふうに思いました。レイアウトは東京書籍のほうが見やすいなというふうに私は思いました。字の大きさとかは開隆堂のほう大きい字が多いのかもしれませんが、ちょっともしかしたら感覚の違いかもしれません。何か東京書籍でいいなと思うのは、一番最初の家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科ですという、やっぱり教科の目的がもう端的に書いてあるという、ここが非常にいいなと。今の教科書もそうだったような気がしますけど、その辺が開隆堂は何か一番最初に、いよいよ家庭科の学習が始まりますということの、それはそうなんですけど、何のために教科があるのかなというのが端的に書いてある東京書籍が一番いいなと思いました。 あと、先ほどの比較でいうと、食の部分ですが、朝ご飯を作るというところで非常に対照的な、東京書籍は 91 頁ですかね、朝なので時間はあまりありませんということ、開隆堂は 93 頁ですけど、これを見ると、作り始めてから出来上がるまでタイムスケジュールが書いてあるんですけど、30 分っ

遠藤洋路 教育長	てやっぱり、朝30分かけてご飯を作って、そこから食べて片づけるとなったら、やっぱり結構な時間なんで、現実的に考えると、やっぱり東京書籍の方がより現実に即した、つながることになっているのかなというふうに思いました。その辺も東京書籍の方が好感がもてたなと私は思いました。以上です。
澤栄美 委員	他に、ありますか。 今、中身を見ていて思ったことをちょっと付け加えて言うと、今、子供たちの生活リズムが乱れていて、それは保健の学習でもやっていたりとか、養護教諭とかが保健指導なんかでもやっていたりはするんですけど、東京書籍の方が80頁から、自分の生活を振り返るグラフなども使われて、すごくそこを重要視されているのかなという感じで、なぜ生活時間の整えが必要なのかというのが4頁にわたって扱ってあって、開隆堂さんのほうは8頁、9頁にちょっと簡単にという感じなんです。それから続けて東京書籍のほう朝食ということで、朝食欠食の子供も多いという中で、こういったことが続けて扱われているというところに私はすごくいいなというふうな感じを持ちました。以上です。
西山忠男 委員	開隆堂の84頁に同じ題材があります。
遠藤洋路 教育長	生活時間のマネジメントというのが開隆堂にもありますね。
澤栄美 委員	はい、ありました。
遠藤洋路 教育長	どちらも同じグラフが載っているように思いますね。 他にご意見ありますか。
小屋松徹彦 委員	私、先ほど導入の部分で非常に入りやすいというふうに申し上げましたけど、内容的にいきますと、開隆堂さんのほうも内容は全部書いてあるんです。ただ、例えば142頁、143頁の方を見ると、東京書籍さんと同じような内容のことが書いてあるんだけど、そうではなくて、この本を見たときに、それがもうめくるたびに出てきた方が導入としてはやっぱりいいんじゃないかなということで、先ほど申し上げました。 それと、もう一点は、この家庭科室を体験する、家庭科室なんですけど、これを比べてみて、ちょっと開隆堂さんの家庭科室は寂しいなという、人がいなくて、何かわくわく感ということからするとやっぱり……
遠藤洋路 教育長	それは、すみません、何ページの。
小屋松徹彦 委員	ごめんなさい、開隆堂さんの7頁の家庭科室の例が出ていますね。それと一方では、この東京書籍さんのほうは14頁、15頁、これに出てはいますが、この図がちょっと子供たちが見たときに、わくわく感という意味では東京書籍さんの方がいいかな。もう少し表現が欲しかったなと、開隆堂さんのほうですね、というふうに思いました。以上です。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。

	他にありますか。よろしいですか。 他になれば、家庭は以上ということにします。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「外国語」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。
早稲田大輔 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございました。非常に詳しく説明していただいて、分かりやすかったかなというふうに思います。 では、委員の皆様からご意見ありましたらお願いします。 西山委員。
西山忠男 委員	私は、どの教科書を使っても英語を教えるのはとても難しいなと思いました。その理由は、主体的な学びなんですけど、生徒が主体的な学びをするというときには、例えば単語が分かんないときはどうやって調べるんですかね、これ。生徒が調べる手段がないと、主体的な学びにならないですね。実際にはどうしているんでしょうか。タブレットで検索するんでしょうか。どうしているんでしょうか。辞書を使わないんですかね。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
阪本雅弘 研究員代表	失礼します。特に小学校の5年生でやっぱり初めてこの英語の、外国語の教科書を使っていくときに、まだ読めない段階でございます。3、4年生で十分慣れ親しんでいれば、少し文字を見て、音声、音が想像つくところもあるんですが、辞書を使うというところが、やっぱり音声からまず入って、慣れ親しんだ段階でないちょっと難しいのかなということで、子供たちが日本語の意味を見て、辞書を調べるのはタブレットでしている場面も、私もうちの学校の子供たちで見ることあるんですが、あと、やっぱりそこから音声が出てこないとなかなか、単語の意味は分かっても、でも使い方まで分からないと思います。今回、全ての教科書を見せてもらって、ワードブックとか、別冊とかでいろいろそろえてありますけど、そこから子供たちが使える単語とか、使いたい単語を選んでいくような形が主流かなとは思っています。
遠藤洋路 教育長	西山委員。
西山忠男 委員	ワードブックは、東書と、それから開隆堂、三省堂にありますよね。ほかの教科書では、巻末にとじ込んであるような感じなんですけど、東書と開隆堂と三省堂のワードブックは索引という形で、日本語の単語に対する英

	語の単語が書いてある、こんな感じですね。だから、これは和英辞典としては使えるんですよね。例えば、ニンジンってどういう意味かなと思ったら、どういう英語かなとこれを見れば分かる。だけど、その逆はできないんですよ。英単語を見て、この意味は何だろうなと思うともう調べようがないです、教科書では。だから、辞書は持っていない、もちろん電子辞書も持っていない、タブレットで調べるしかないという状況で、これ、どうやって教えるんだろうなと思って、すごくこれは難しいというのが感想です。 それでも、ワードブックがある東書と開隆堂と三省堂のほうはまだましかなと、そういう意味では。ほかの教科書は巻末にあるけど、索引に対応するものがないので、和英辞典としての機能がついていませんから、それはちょっと困るなと思いました。 もう一点ですけど、文法を教えないんですよね。だから、出てくる現在形と過去形の意味が分からないと思うんですよ。これについては、三省堂の本で6年生の59頁、ここで現在のもとの過去のもをを表すカードでカード合わせをしようということで、It is a frog.とIt was a tadpole.というふうな対応が示してあって、isとwasが現在形と過去形だというような説明があるんですけど、ほかの教科書でこれの対応するような説明はあるんでしょうか。ちょっとあまり見当たらなかったように思うんですけど、どうでしょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
阪本雅弘 研究員代表	おっしゃるとおり、この三省堂のところは、ちょうどおっしゃったこのIt was green.というところの単元は、be動詞の過去形でちょっと特化してあるような形で私も思いました。他社のほうは、enjoyedとか、I wentとか、sawとか、playedとか、規則動詞、不規則動詞が何か自然な形で出てきているような形で、be動詞も交ざっている表現もあるんですけど、確かに三省堂のほうは、ここはisとwasの現在と過去の比較ということで取り上げてあるなというので、私どもも同じような感想をもったところです。 ただ、小学校段階ではまだ文法指導はしないということで、文構造についても教えないということで、やっぱりどういう場面で、状況で、例えば思い出について伝え合おうというときに、やっぱり過去形が当然必要になってくる。そういうときに自然に、自分がどこどこに行った、楽しかったとか、何をしたとかというのをまとめた表現として、やっぱり音声を繰り返して自然にそれを伝えていくという、だから、過去の場面に応じた表現はこれだよということでやっぱり言語活動を繰り返して充実させていくということで、どの会社もつくられているなと思いましたけど、be動詞は確かに三省堂のほうが、ちょっとここでは重点的に取り上げてあるなとは思いました。
遠藤洋路 教育長	西山委員。
西山忠男 委員	私自身が英会話を習得したプロセスを考えると、小学校の段階でこういう会話、思い出について語ろうとかいうのは物すごく難しいなという感じがするんですよ。だから、本当に教育効果が上がるのかなというのは極めて疑問に思いましたけど、どれか使おうとしたら、私は三省堂がいいなと、そういう意味では思いました。辞書があるということと、過去形がきち

遠藤洋路 教育長	んと、be 動詞ですけど、説明してあるという点です。 ありがとうございました。 では、ほかにご意見ありますか。 出川委員、どうぞ。
出川聖尚子 委員	質問ですけど、先ほどデジタルコンテンツが、各社いろいろ特徴がありますというお話をいただいたんですが、少し詳しく話していただけますでしょうか。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
阪本雅弘 研究員代表	失礼いたします。QR コードがやっぱり今回かなりたくさん、いろんな教科書、もう全ての教科書に準備されているなというのは本当に私も思いました。全ての教科書で、まだ体験版だったりとかで見ることができないのもあったんですけど、やっぱり子供たちが音声から入っていくときに、実際に実写映像だったり、アニメーションだったり、モデル映像というのがあるのがとても参考になるなと思いました。 それから、先ほどちょっと私、チャンツというところが、これも子供たちが家でも、家庭でも自分でタブレットで QR コードを読み込んで、自分で練習することができる。だから、繰り返し活動していくときに、この QR コードというのは、とても今後、効果的な部分になっていくのかなと。ただ、ちょっと QR コードが全ては見られなかったんですが、ちょっと教科書の見開きを見たときに、多いところで 9 個あったりするような貢もありました。開隆堂とかがちょっと多かったんですけど、授業中にちょっと子供たちが、じゃ、QR コードで音声を聞いてみようか、それを見てみようというときに、タブレットに読み込んでいくときのその作業はちょっとかなり手間はかかるのかなと思いました。それが各頁に 2 個、4 個あったりしても、結局それで読み込んで、それぞれが自分の好きなものを見て音声を聞いたり、画像を見たりしていくと、教室の中のそれぞれの子供たちが違うことをやっていく。イヤホンをつけてするような活動をすれば少し効果的な部分はあるかもしれませんが、その QR コードの使い方というのは、指導法にもまたよってくるかなと思いました。ちょっとここでお見せすることもできますですけど、時間がかかるんですが、いかがでしょうか。
遠藤洋路 教育長	ちょっとだけ、お願いします。
早稲田大輔 研究記録員	（動画視聴） ちょっと失礼します。光村図書の場合はこのようにして、これ、すぐ押すところの画面になったりする。ほかにも、一つの QR コードを読むだけで、いろんな部分に飛んだりとかして、ちょっと見やすくなっているかなというふうに思っております。対話もちろんあります。
遠藤洋路 教育長	西山委員、どうぞ。
西山忠男 委員	今の例ですけど、これ、生徒は聞き取れますか。聞き取れないときはどう指導するんですか。

遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
阪本雅弘 研究員代表	スピード調節ができるようになっていきます。それから、字幕も出るようになっていきます。字幕は当然読めはしないんですけど、音声を聞きながら文字を見て、子供たちは、あっ、ここを読んでいるのかな、言っているのかなという想像をしていきます。やっぱり繰り返しがもうとても大事になってきますので、それだけ音声でインプットするというのはとても大事になってくるかなと思います。
西山忠男 委員	あと、現実問題、英語を既に勉強している子供がかなりの割合だと思うんですよ。だから、聞き取れるし、文字も読めるし、過去形も知っているという子供のほうが実際クラスの中には多いんじゃないかと思う。 その意味では、分かる子と分かんない子の差というか、そのほうがむしろ問題なのかもしれないなと思いますけど、そこはいかがですかね。
阪本雅弘 研究員代表	失礼します。確かにもう低学年の頃から英語を学んでいる子供たちとかもいて、教室の中にはいろんな発達段階の子供たち、理解度の格差もあるのはありますけど、やはりお互い学び合いをするような場面は、そこで私たちはつくることができるかなと思います。 先ほどもありましたけど、対話的な学びというところで、上手に自分は英語を使えないとか、理解ができないとかいう子供たちは、じゃあ、逆に上手な子供たちと対話的な活動、言語活動を通して、それをまねしていく、いろんな表現をお友達からもらっていくと言うとおかしいですけど、学んでいって、自分の表現にしていけるということが、そこは、もう私たち教師側が工夫をして指導していくことによって少しずつ格差を埋めていくことができるかなと思います。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 西山委員、多分誰も分かんなくて途方に暮れるというよりは、クラスの半分は分かっている、半分は分かっていない、何かそんな状況のほうが実際の教室に近いかなというふうに思いますので、今おっしゃっていただいたように、まずはそこでどうやってお互いを学び合うとか、それを対話につなげるというか、さっきの足りないと言っていた言語活動につなげるのかというところが一番大きな課題というか、重要なところなのかなと思いますけど。 どうぞ、西山委員。
西山忠男 委員	そのとおりだと思います。音楽でもそうですけど、突出した生徒がいるわけですね。それに対して全然できない普通の生徒がいるという、何か英語でも同じような状況が生まれるだろうと思いますが、ただ、今の生徒で、それほど英語力がついている生徒がたくさんいるのかなというのはちょっと疑問なんですけど、どれぐらいの生徒が英語力があるんですか、クラスの中で。
遠藤洋路 教育長	いかがですか。

阪本雅弘 研究員代表	他校の状況、私もちょっと研究会とかで見せていただいたときに、3年生でも結構やり取りしている場面も見ます。確かに会話としてはもうちょっとという部分はあるんですが、ただ、英語でちゃんとリアクションをしたりとか、お互い尋ねたり、特に Hello.、See you. とかという、何か自然な会話の形をつくっているところはどこの学校でも取り組まれているなということで、そこにだんだん言語活動、この教科書を通して表現を加えていけば、私はもう言語活動としてはだんだん充実していくのかなと。確かに学校の中ではいろいろ差は出てくるんですけど、本当英語の対話のような場面というのは、だんだん私は増えてきている感じはいたします。
遠藤洋路 教育長	よろしいですか。 では、ほかの委員の方からご発言ありましたら、澤委員、お願いします。
澤栄美 委員	デジタルコンテンツが非常にすごく重要だと思うんですよ。やっぱり耳から聞いて、そして、それが外に出ていくということで、チャンツが全部に入っているということで、さっきもこの表で分かったんですけど、啓林館で、さっき説明の中に、例えば 73 頁とかにチャンツというところ、リズムに合わせて言いましょとかいうのがありますよね。そこにアクセントのポイントが掲載されているんですけど、私の親友がちょっと英語の仕事をしているもんですから、その彼女から聞いたところによると、発音よりもアクセントのほうがすごく大事で、伝わるか、伝わらないかはもうアクセントだというふうに、通訳とかする友達なんですけど、言っていたんです。これ、何かだから、そういう意味ではすごく分かりやすいなと思ったので、ただ耳で聞いても……
遠藤洋路 教育長	澤委員、今、どの頁の話。
澤栄美 委員	啓林館の 73 頁の右上のところですよ。 ほかの教科書には、こういった何かアクセントをこうやって目で見て分かるようなものって掲載されているのかなと。全部をしっかりと見る時間もなかったんで、ここはあまり高くは評価されていなかったんですけど、どうなのかなと思ってちょっと聞いてみたいと思いました。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
阪本雅弘 研究員代表	確かにこの啓林館のチャンツがこのような形で頁の右上に配置されていて、そういうふうに強く読むところを点で示してあるので、子供たちは心地よく聞きながら、強く読むところのイメージが、この What's、favorite、memory、というのが分かってくると思うんですけど、これが読めるようになってくるといのがまたつながってくる部分だと思いますので、ここはとても工夫されているところかなと思います。 ただ、やっぱり音声をしっかり繰り返して、今度、じゃ、このチャンツの表現を基に自分の気持ちや考えを伝えるための自分の表現に変えていくというのがこの部分ではとても大事なかなと。ほかの会社も映像とかで見ていると、チャンツが結構リズムよくアニメーションだったりとかでするので、表記はしていないんですけど、やっぱり何回も何回も音声を繰り返していくことで、それはもうアクセント、ここは強く言うんだと、

澤栄美 委員	自分が一番言いたいところは強く言うべきなんだというのは、子供たちが繰り返し聞いていくことで学んでいけるとは思います。
阪本雅弘 研究員代表	分かりました。さっきの説明では、それがちょっとワンパターンになってしまうかもしれないので、これはあまり評価できないというところで話が確かあったと思ったんですけど。
澤栄美 委員	はい、次のアクティビティにつなげるというところで。 はい、その部分での説明だったんですけど、アクセントをきちっとしていくという部分では、ほかの教科書とか、音声でもあるのかなというのがちょっと知りたかったということです。 続けて感想になりますけど、一番最初に説明があった見通しと振り返りのところは、説明にあったように、光村と開隆堂だったですかね、そこが本当に CAN-DO リストということで、分かりやすくなっているなというのは私も思いました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	では、ほかの委員、小屋松委員、お願いします。
小屋松徹彦 委員	まず、5、6年生の英語なので、まず私は英語に慣れるということだろうと思って、その中で特に聞くこと、それから話すこと、ここが中心なのかなというふうに思いました。 それで、そういう観点から、子供たちが自分の考えや気持ちを伝え合うというのは、別に対話的なことができるかどうかの力をどうやってつけるかという、そういったことも大事なのかなというふうに思ったんですけど、その観点から、先ほどの私の思い出の中をずっと見させていただいて、対話的な言語活動というのは授業を通して養われるというか、そういう観点から見たときに2社ですね。 まず、東京書籍のほう、東京書籍の74頁から、Let's Try に始まって、それから、Step 2 から Your Goal ということにとつながっていきますけど、これを見ると、もう全て対話、対話でやっていかざるを得ないような組立てになっているというところで、対話的な言語活動というのにスムーズに慣れていけるかなというふうに思いました。それから、もう一つは光村図書ですね。光村図書のほうは87頁からになっていますが、まず、この Let's Try で、10人の友達にまず話しかけるということが入っていますし、あと、その後の Plus One でもまたアウトする機会だったり、そしてまた、最後の89頁でもまたこの Plus One ということで、授業の中でどれだけ対話ができるのかなという、そういう機会をつくるという点では、この2社の教科書は優れているなというふうに思いました。 それから、デジタルコンテンツのことについてですけど、私もこの英語におけるデジタルコンテンツというのは非常に大事だなと思っていて、まず発音ですよ。耳で実際の英語を聞く、発音を聞くというのは非常に大事なことで、これを授業中に取り入れるというのはなかなか難しいでしょうけど、家に帰ってからこのデジタルコンテンツをしっかりと聞く、これを繰り返すことは非常に有効なことだなというふうに思いました。それと、発音も同じですけど、このデジタルコンテンツについては、授業でというよりも、家

遠藤洋路 教育長	庭に帰って自学で利用するというのに非常に有効かなと思いました。以上です。 ありがとうございます。 ほかにご意見ありますか。ありませんか。 最初に示していただいたように、言語活動の比率が非常に、全国平均と比べてかなり少ないというのは大きな問題だと思いますし、その意味で対話を重視した教科書、今、小屋松委員から出していただいたように、東京書籍というのが一番何かその点は優れているなというふうに思います。 ただ、東京書籍はちょっと書くところが多過ぎてレベルが高過ぎるというか、ちょっと難し過ぎるのかなという、かなり大人でも難しいなと思うようなレベルの部分があると思うので、そこはどう評価するのかなというところは少し難しいかなとは思いました。その意味で、逆にこの三省堂ですかね、Oh、yes.とかWow.とかだけというの、これはこれで分かりやすくていい、現実問題、こっちに近いのかもしれないですけど、それよりはもう少し会話が続くほうがいいのかなというふうには思います。 ほかにありますか。よろしいですかね。 ほかになれば、外国語は以上とします。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「算数」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
柳邊桂三 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。西山委員。
西山忠男 委員	最初に質問ですけど、5年生の教科書の巻末に、どの教科書も5年生のまとめとか、6年生の準備とかという教材がついているんですが、それについて各社特徴があるようなんですけど、見たところ日本文教出版の5年生の教科書の265頁、算数マイトライというような、こういう内容、これ、かなり充実しているかなという感じを受けて。あと啓林館ですと、5年生の248頁などのもうすぐ6年生という題材、それから、こっちの教育出版ですと、260頁から5年のまとめがあって、さらに広がる算数というアドバンスなんかの内容があると。各社特徴があるんですが、これについてはどう評価されたか、教えていただけますか。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
西釜勝久 研究員代表	巻末の問題、いわゆる補充問題については、主にそれぞれの会社2段階のようにして準備しております。子供たちが自分の実態、状況に応じて、問

	題を選択してできるような配慮がしてあったというふうに捉えております。
遠藤洋路 教育長	西山委員。
西山忠男 委員	その中で、どの教科書が優れているという、そういう評価はいかがなんでしょうか。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
西釜勝久 研究員代表	今ありましたように、段階を2段階にしているところは配慮があるとしておりますが、一部、その段階がなかった会社があったかと思います。差は、それぐらいというふうに研究員の中ではありました。
遠藤洋路 教育長	具体的にどうこうというのを教えてもらえますか。
柳邊桂三 研究記録員	失礼します。今おっしゃったところに関しては、この評価の観点でいきますと、3番の「補充的・発展的な学習」のところに入れさせていただいております。各社、普通の練習問題とかにおいてもデジタルコンテンツ等が非常に充実しておりましたが、学校図書と教育出版に関しては〇とさせていただいております。今、代表からもありましたように、各社非常に充実しておりますが大差はなかったのも、他の教科書会社はにさせていただいているんですが、この2社に関しては、自分で難易度を選ぶ、例えば間違いやすい問題に印がついていたり、ちょっと難しいよというような問題に印がついているような会社のものと、もうそういったものがないものというところが見受けられましたので、そこでこういう差をつけさせていただいているところです。
遠藤洋路 教育長	西山委員。
西山忠男 委員	3番の補充的・発展的な学習で評価したということですね。これは3番、教育出版は〇になっているんですけど、私はこれ、例えば290頁からの広がる算数というテーマ、これは非常に優れていると思ったんです。どうしてこれが〇なのかなという気がするんですけど、いかがでしょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
西釜勝久 研究員代表	これにつきましては、巻末とともにほかのところも判断材料としておりまして、一つは、デジタルコンテンツの中に補充問題をちょっと見つけることができませんでした。それから、紙媒体の問題につきましては、多くの会社が適用問題のところで色分けをして、これとこれはどうしてもしておきましょうという区別がつくようにしてありますが、教育出版につきましては、それをちょっと見つけられなかったのも、そのような判断にさせていただきました。
遠藤洋路 教育長	西山委員。

西山忠男 委員	了解しました。もう一つ、意見です。細かいことではあるんですけど、学習会でも指摘しましたが、円周率の説明なんです。円周率については、5年生の教科書で全てきちんと説明してあるんですが、6年生へのつなぎのところが教科書によってかなり違うんですよ。 例えば、学校図書の6年生ですと、132頁で円の面積は次の公式で求めることができますと書いてあって、半径×半径×3.14とあって、この3.14は円周率という説明がないんですよ。何で3.14かなと子供たちは思うんじゃないかと思って。5年生で習っているけど、6年生もちゃんと覚えているかというと、そんなことはないで、これはちょっと問題かなと思います。 啓林館は、6年生の93頁で円周は直径×円周率と書いてあるんですが、円周率の値が書いていない。ところが、95頁でいきなり3.14が使われるというような、こういうちょっと混乱するような書き方がされています。 一番優れていたのは教育出版の書き方で、6年生の113頁、この円の面積の公式で、円の面積は半径×半径×円周率ときちんと定義してあって、円周率は普通は3.14を使うよと吹き出しで説明があります。そういう意味では教育出版が一番丁寧で、5年生とのつなぎがしっかりしているなと思いました。ただ、これはピンポイントの話なんで、意見です。 以上です。
遠藤洋路 教育長	他の委員からいかがでしょうか。特にはありませんか。小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	それぞれの単元の巻末の問題、これの問題に対しての右の方に、また元に戻って見る頁というのを書いてあるのが、私が見たところでいきますと啓林館と東京書籍、それから大日本図書というのは載っていましたが、最後の仕上げの問題のときに、また少し前に戻って、もう一回そこを見てからこの問題を解きましょうみたいな流れになっていて、一つ一つきちんと理解をして進めていくという上では、こういう構成はいいなと思って見させていただきました。 これは、またお尋ねといいますか、QRコードというのが数学でも相当数が今回また増えていると思いますけど、このQRコードを学校現場でどういうふうに活用していくんだろうかなということを思いまして。というのが、例えば図形とか、グラフとか、いちいち作らなくて、ぽっと出せばいいということで、非常に現場の負担が軽くなるかなと思う反面、それ以外のグラフ等を使わないでいく場合に、QRコードを授業の中にどの程度活用できるのかなというのが疑問だったんですが、何かコメントがいただければ、お願いします。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
西釜勝久 研究員代表	授業の中におけるQRコード、デジタルコンテンツの活用ですが、多くが補充問題といわれる練習、そういう場面で使うことが多いと思います。その中で、子供たちが自分でこの問題を解いてみよう、自分の状況に応じて選択してするというふうな、そういう場面だと思います。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	ということは、授業ではこのデジタルコンテンツというのをすることは、

	頻度としては少ないというふうに考えてよろしいのでしょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
西釜勝久 研究員代表	頻度につきましては、詳しくは調査をしておりませんので断言はできませんが、そこまで高くはないというような、研究員の中ではそのような意見、実態を教えていただきました。
遠藤洋路 教育長	よろしいでしょうか。出川委員、お願いします。
出川聖尚子 委員	私もデジタルコンテンツのことなんですが、啓林館は、例えば59頁によくある間違いとか、58頁、59頁とかに、そういうデジタルコンテンツの横に、少し上とかに言葉が書いてあって、非常に子供もちょっとこの作業が終わったりしたら見たりできるかなというふうな工夫がしてあるんですけど、他のところでそういうふうな、こういう今言われたような問題をまたクラスでする以外に工夫されている点、教科書というのは、どんなところがあるか、ありましたら教えてください。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
西釜勝久 研究員代表	今、画面に出ておりますが、まずコンテンツの内容としまして、動画での解説、それから練習問題、それから操作、振り返り、そのようないわゆるカテゴリー別に準備がしてございました。ですので、やはり内容によって活用の仕方も変わってくるかとは思います。
遠藤洋路 教育長	よろしいですか。澤委員。
澤栄美 委員	すみません、ちょうどこれが出ていますので、操作というのと、動かすというのがあるんじゃないんですか。それは、何か私の中ではどんな違いなのかなって、動かすのも操作だし、どんな内容なのかなというのをちょっとお聞きしたかったんですけど。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
柳邊桂三 研究記録員	失礼します。この資料を作成するときに、大体動画は動画、操作は操作とあわせた方がいいのではというふうにも思ったんですけど、各教科書会社さんがこういったコンテンツを準備していますというときに、ここに示していますような内容で表記されていたので、そのまま使わせていただいているというのがまず一つです。
遠藤洋路 教育長	澤委員。
澤栄美 委員	例えば操作とかというのは、どんな場面でどんなふうに使うようなものなんですか。
遠藤洋路 教育長	お願いします。

柳邊桂三 研究記録員	失礼します。例えば図形問題で、3Dのものが準備されている教科書会社もあります。動かしてみたりとか、あと、低学年でいろんなカードとか、おはじきみたいなものを、自分でタブレット上で動かす。算数セットとかでもあるんですけど、タブレット上で動かすというところを操作という表記にしてある教科書会社があったかなと思います。
遠藤洋路 教育長	澤委員。
澤栄美 委員	感想というか、ここがいいなと思ったところを申し上げると、もしかしたら何か報告の中で言われて、私がぼんやりしていたのかもしれませんが、学校図書の最後の方に考え方モンスターというのがあって、算数の見方・考え方について1個でまとめているのが、他の教科書の振り返りに比べるとちょっと違うかもしれませんが、ある意味ではあっさりしていて分かりやすいのかなというふうに思いました。 それと、啓林館の生活に生かすというところでは、それがよかったというふうに、確かご報告されたと思うんです。子供って算数をどこで使うのって、勉強してもどうせ使わないじゃないって、結構よく不得意な子供とか言ったりすると思うんですけど、この学びを生かそうのやってみようで、お菓子のことで、生活に生かすような部分が出てきているのは、私もすごくいいなというふうに思いました。以上です。
遠藤洋路 教育長	他にありますか。よろしいですか。 私からのコメント、これ、事前の勉強会のときにも言いましたけど、算数のこの紹介していただいた割合というんですかね、これに関して思ったのは、3社がバスケットボールを題材にしているんですけど、バスケットボールというのは、シュートの成功率を競うスポーツではなくて、シュートの入った数を競うスポーツなので、シュートがよく入ったのは誰だろうというのが問いであれば、シュートがたくさん入った人がシュートがよく入ったというふうに言うと思うんですよ。だから、試合でも練習でもそうですけど、シュート1本打って1本入った人より、シュート20本打って15本入った人の方がよく入ったというふうに言うと思うので、割合とか率を考えたときにバスケットボールを持ってくるというのは、私はセンスがないなというふうにはっきり言って思います。ちなみに、教育出版、東京書籍、学校図書は、そういう意味ではちょっとどうなのかなというふうに思いました。一方、他のところは勝率であったり、あるいは輪投げみたいな本当に入った率を競うものであったり、あるいは倍率であったり、そういうものを取り上げているので、そっちの方がより現実に即したものなんじゃないのかなというふうに思います。 一方で、西山委員もご指摘があった巻末というんですかね、補充的なところはやっぱり教育出版と啓林館がよくできているなと思っていて、特にこの啓林館の6年生の最後の部分というのがすばらしいと思います。啓林館の6年生の230頁からが、実際の人にインタビューというんですかね、お仕事インタビューというのがあって、結局どんな仕事をしていて、その中で算数というのはどんなふうに使っているんですかというのが書いてある。だから、算数とか数学って、結局これやって何になるの、役に立つのか、将来使うのかというところが一番、私も子供の頃そうでしたけど、こんなんやったら将来使わねえだろうというのが一番のやるときの反感とい

遠藤洋路 教育長	う、やりたくない理由の一つなので、こういうふうな仕事でこういうふう に実際使っているんだよというのを示してあげるというのは、とてもいい なというふうに思いました。算数の教科書にあまりこういう人名というん ですか、実在の人物ってあまり出てこないと思うので、そういう意味で非 常にいいなというふうに思います。 もっとぜいたくを言うと、みんな算数、数学を使っていますという仕事 の人だけじゃなくて、いや、全然使っていないですみたいな人も1人ぐら い入っていたほうがよりリアルでいいのかなというふうには思ったところ です。でも、やっぱりこうやって使うんだと、こんな仕事に就くと、こんな ことやりたいなと思ったときには、ちゃんと勉強しておかなきゃいけない んだなというのが分かるだけでも全然違うなというふうに思ったので、こ こは非常にいいなと思いました。私からは以上です。 他にご発言があれば、どうですかね。よろしいですか。他にご発言がなけ れば、算数は以上といたします。 以上で本日の協議を終了いたしました。 本日までの協議を受けて、次回8月9日（水）の臨時教育委員会会議に て採択を行います。 これで、本日の臨時教育委員会会議を閉会いたします。
-----------------	---